

「大花壇」美しく ボランティア 9万株手入れ



花壇の美しさを保つため、花から摘みをするボランティア
熊本市東区

全国都市緑化フェア（くまもと花博）のメイン会場の一つ、熊本市動物園（東区健軍）で約9万株の花々が咲き誇る。2日も、15人が花壇から摘みなどに汗を流した。

「大花壇」は、市民ボランティアによる定期的な手入れで維持管理されている。2日も、15人が花壇の手入れに携わった。今回は新型コロナウイルス禍で公募を断念し、長年江津湖の清掃活動を続ける肥後東ライオンズクラブと、市が認定する緑化の地域リーダー「緑のマイスター」が延べ500人体制で、期間中の花壇の手入れをボランティアで担う。

この日は多くの来場者が花々を愛でる中、しおれたり咲き終わったりした花を摘み取り、枯れ葉などを拾った。同クラブ会長の鶴良子さん（71）＝東区＝は「子どもたちの笑顔のため、美しい花壇を保っていききたい」と話していた。

（河北希）



大花壇美しく
熊本市動物園

大花壇の手入れをするボランティアら

国内最大級の花と緑の祭典「第38回全国都市緑化くまもとフェア（くまもと花とみどりの博覧会）」の会場となった熊本市動物園で2日、ボランティアが花壇の手入れを行った。三つのメイン会場の一つである動物園には、約9万株の花が植えられた大花壇が整備されている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、花壇を整備するボランティアの一般公募は行わず、地元の奉仕団体などが花壇の維持・管理を手伝っている。

この日は、地元の肥後東ライオンズクラブの会員ら15人が参加。地域の緑化活動の担い手として市が認定する「緑のマイスター」とともに、大花壇で咲き終わった花殻を摘み取ったり、雑草を抜いたりした。今後も定期的に活動を行うという。

同クラブの鶴良子会長（71）は「きれいになった花壇を見て、多くの人に笑顔になってほしい」と話していた。